稜線

西東京市立ひばりが丘中学校
第２学年
第３２号
令和６年１０月２５日発行

今回の合唱祭の作文は、D組を紹介します。

本気で楽しんだ合唱祭

D組

「緊張する…」

伴奏のため舞台袖で文行と指揮者と待機していたとき、皆でずっと言っていたことだ。でも実際私は緊張より、楽しみという気持ちの方が勝っていた。それは一体どうしてだろう。

私は緊張しすぎて合唱祭を楽しめなくなるのが嫌で、本当は伴奏をしたくなかった。しかし、ピアノの先生の勧めもあり、私は伴奏に立候補した。すると、候補者の数がちょうどだったこともあり、私は伴奏者に決まった。曲は希望の課題曲「時の旅人」。私は７月からこの曲を練習し始めた。夏休みが明けて初めて指揮伴奏含めて皆であわせたとき、私は楽譜が自分でめくれない分の暗譜をしていなかったせいで、途中で伴奏を止めてしまった。それに緊張でテンポが速くなってしまった。皆に申し訳ない気持ちになり、合唱祭本番も不安になってきてしまった。しかし！そこでくじけてなんて居られない私は、家でピアノを猛練習した。するとだんだん、やる気が出てきて、歌う声も、最初はとてつもなく小さい声だったのを、苦手なりに大きく出せるように頑張れるようになった。

次第に、伴奏をしていても、歌っていても、皆で本気になっていって、合唱をするのが楽しくなっていった。

気づいたら、私は合唱を本気で楽しんでいた気がする。

そして本番、楽しんで伴奏をしたし、歌った。皆で本気で歌った。でも結果は、何も賞が取れずに終わった。皆気分がしょぼんってなっていて、泣いている人もいた。これはそれだけ皆が本気になれたからだと思う。

賞は取れなかったけど、私が、合唱祭が楽しかったと思えて、本番直前で緊張よりも楽しみが勝ったのは、練習で、皆で本気で歌えるようになり、それを楽しめていたからだと思う。これからの行事などでも、私は本気で楽しんで「楽しかった」と言って終われるようにしたい。

合唱祭、楽しかった！

忘れられない青春

D組

２年Ｄ組が最優秀賞にも優秀賞にも選ばれなかったことが確定したとき、正直理解できなかった。絶対に選ばれると思っていた。それだけ全力で挑んだし、悔しかった。

一年生の時、当時の２年生が歌っていた「時の旅人」をきいて、おしゃれでかっこいい、絶対歌いたい！と感じた。そういう気持ちで始まった練習は、パートリーダーに選ばれたこともあり、確実に去年とは違う思いで行えた。受け身にならないように自分のこともパートのこともよく意識して、積極的にクラスの合唱を良くしようとした。しかしトラブルもあった。「時の旅人」は指揮者も伴奏者もアルトパートの人で、どうしてもパートで音量差がついてしまう。だから、アルトのソロがあるところは、ソプラノの何名かがサポートに入って歌うことになり、私もその何名かのひとりになった。初めは音程や、強弱などの工夫が、今まで練習してきたことと違うところがあって戸惑った。でもあきらめず練習し続けることが出来た。

また、自由曲は「地球の鼓動」だった。第一候補の曲ではなかったけど、かっこよさや優しさも持ち合わせている「地球の鼓動」はＤ組にぴったりだった。入りが難しい曲で他にも伸ばし・音程・強弱など課題はたくさんあった。でも、日々の練習で課題を一つ一つクリアしていった。ぶつかることもあったけど、合唱祭では一番良かったと思えるパフォーマンスが出来た。だからこそ、結果はとても悔しかった。

でも、悔しいと思えたことは、良かったと思う。きっと、一生思い出に残る。本気で挑み、本気で悔しんだ合唱祭は、忘れられない「青春」になる。それはＤ組じゃなかったら分からなかったかもしれない。本当に、このクラスで良かった。

頑張った合唱祭

D組

合唱祭の練習をしていた。席をよく外したり、けんかをしたりする人もいた。ふざける人もいた。あまり完成度は高くなかった。それでも合唱祭本番は、みんなで息が合い、一生懸命に歌えた。

この理由はよく分かっている。授業でしか練習をしていなかったときは、合唱はできていなくて、男子は全体の士気も下がっていた状態だった。そんな中、１回目のリハーサルがあった。もちろん、良くなかった。ダメだった。不安なスタートを切った、毎日６時間目に行う合唱練習。そのときは、みんなまとまってやっていたように見えたが、心はあまりまとまっていなかったと思う。どこか、自分の心の中でそんな気がした。そして迎えた２度目のリハーサル。前回よりは、良くなっていた。だが、やはりまだまだだった。全力で出来ていなかった。もっと上に行ける。もっと上に。

それから、みんなが本当に本気で練習しているように感じた。いや、していた。練習中にけんかをしたとしても、それすら糧にして、上達していった。ついに迎えた最後のリハーサル。最初とは比べものにならないくらいの迫力。素晴らしかった。

合唱祭本番、今までで一番と言ってもいいほど、クラス全員の心と歌声が一つになって、最高の合唱だった。それでも、賞はとれなかった。悲しい気持ちになりつづけても、悔しがっていても、何にもならない。今回皆の心が一つになったときの事を忘れずに、さらにクラスがレベルアップするための土台をしっかり築いていくことが大切だと思った。

本当に歌いたかった曲

D組

僕が最初に歌いたかった自由曲は「地球の鼓動」ではなかった。そして、「本当は歌いたかった曲」を自由曲として選んだクラスは、合唱祭で入賞した。それでも、最終的にこの２年Ｄ組で「地球の鼓動」を歌えて本当に良かったと思えるようになった。

本格的に練習が始まったのは夏休み明け。僕はパートリーダーに選ばれたが、いまいちみんなをまとめられずにいた。課題曲も自由曲もまだまだ声が出ていないし、音程もばらばらだ。それでも、僕たちは練習を続けた。合唱祭も二週間後にまで迫り、６時間目の時間を使って毎日合唱練習をした。音程もとれるようになってきたし、ほかのパートにつられてしまうことも少なくなった。しかし、声の大きさだけが、まだ小さいままだった。合唱祭前日、このままの声量だと、また賞をとることができない。そう思っていたが、いざ練習が始まると、いままでにないほど声が出ていて、ここまで変わったことに驚いた。これなら最優秀賞も狙える。そんな気持ちで合唱祭をむかえたが、結果的には何も賞を取ることができなかった。

こんな波乱の合唱祭で、気づいたことが１つある。それは、この「２年Ｄ組」で「地球の鼓動」を歌ったことに意味があるということだ。もちろんほかにもいい曲はたくさんあったが、この曲が一番合っていると、最終的にそう感じたのだ。来年にはみんなバラバラになってしまい、２年Ｄ組で歌うことはできなくなるが、みんなこの悔しさを忘れずに、それぞれの場所でまた歩んでいくのだろう。

僕は、来年の合唱祭がとても楽しみになった。